

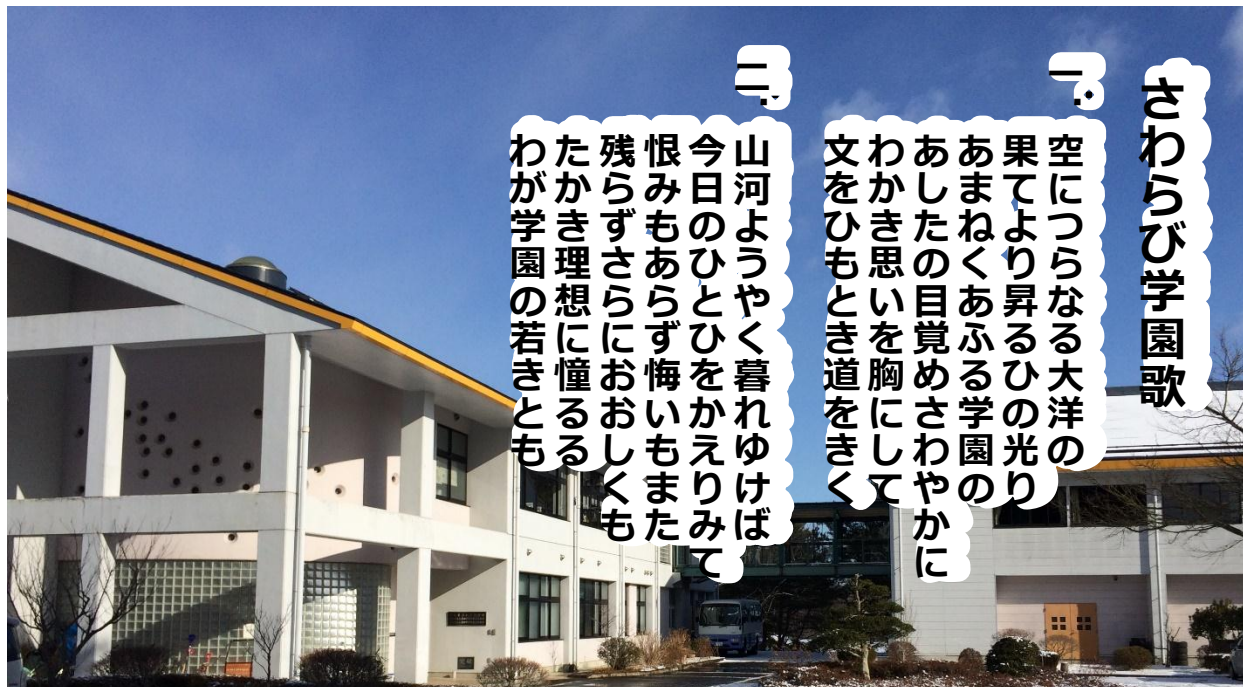
児童自立支援施設における 医療・教育・福祉の連携について

平成26年度保健福祉部業務研究等報告会

2015/2/13

さわらび学園 技師 佐々木 誠二

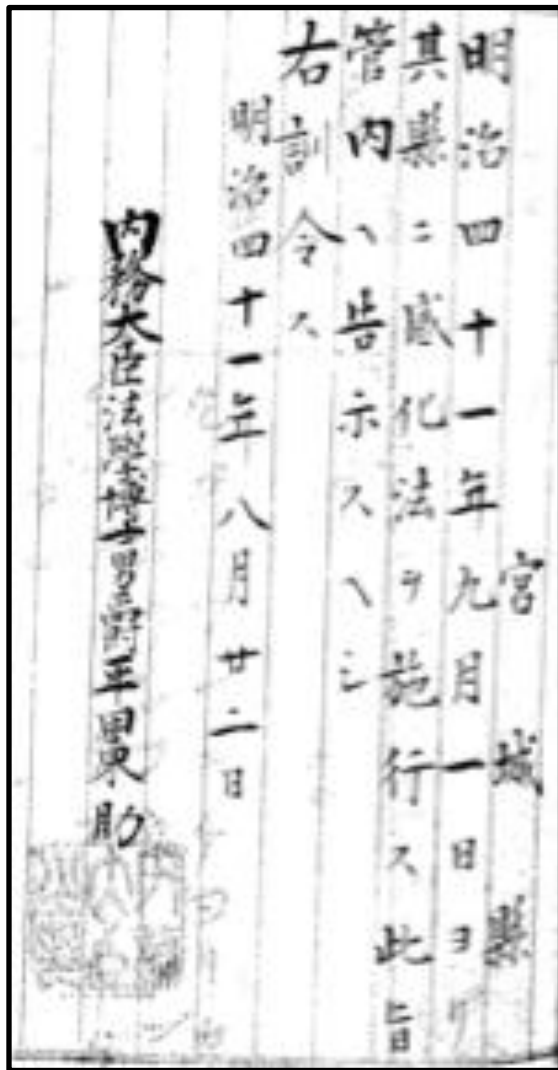
さわらび学園をご存知ですか？



児童自立支援施設（児童福祉法第44条）

- 児童福祉法改正（平成9年）により「教護院」から名称変更（平成10年）
- 非行児童＋環境上の理由により生活指導等を要する児童
- 家庭的・福祉的なアプローチにより，個々の子どもたちの育ちなおしや立ち直り，社会的自立に向けた支援を実施

さわらび学園をご存知ですか？

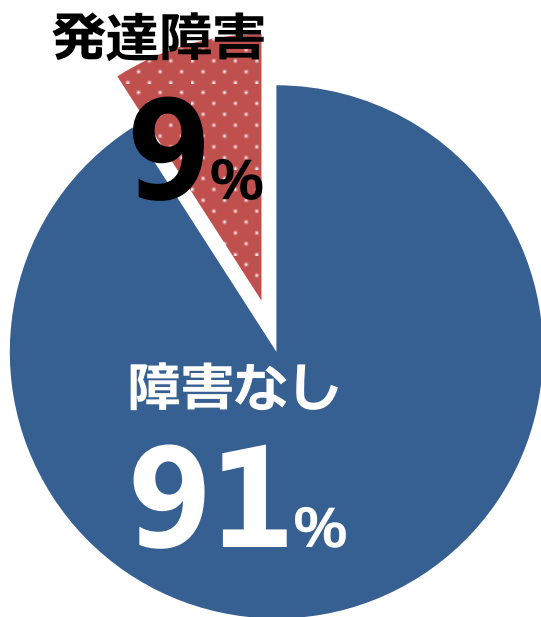


100年以上の歴史ある施設

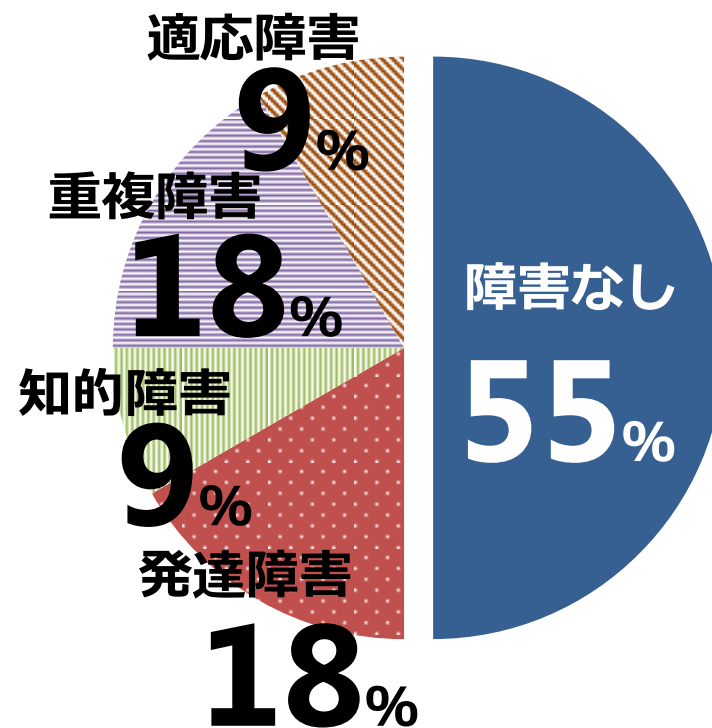
明治**41**（1908）年本県に感化法施行
明治42年修養学園開設
昭和39年さわらび学園へ改称

入所児童の変化

平成9年度入所



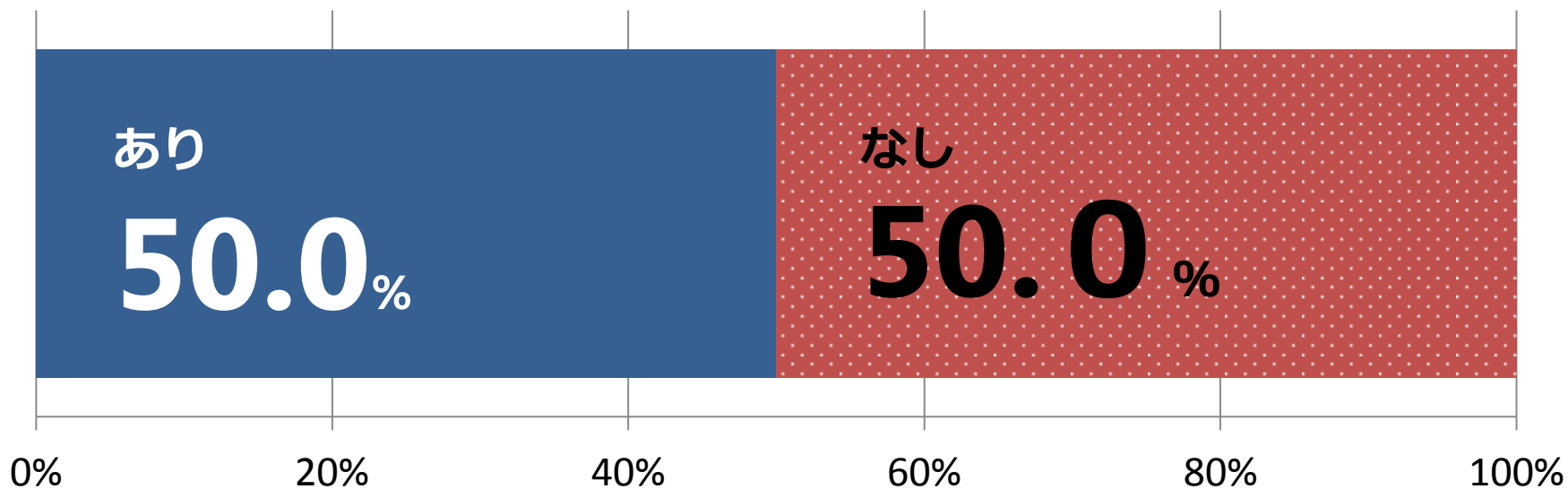
平成25年度入所



障害を伴う児童が増加している

児童精神科通院の状況

入所児童における精神科通院による処方薬の状況
(平成27年1月31日現在)



児相

病院

本人

病院

学園

学校

A

- 平成26年3月入所
- 家族背景が複雑
- 衝動性が強い
- 反抗挑戦性障害
- 環境や人の変化に弱い
- 興奮すると暴言, 暴力, 威嚇



各関係機関の窓口の一本化

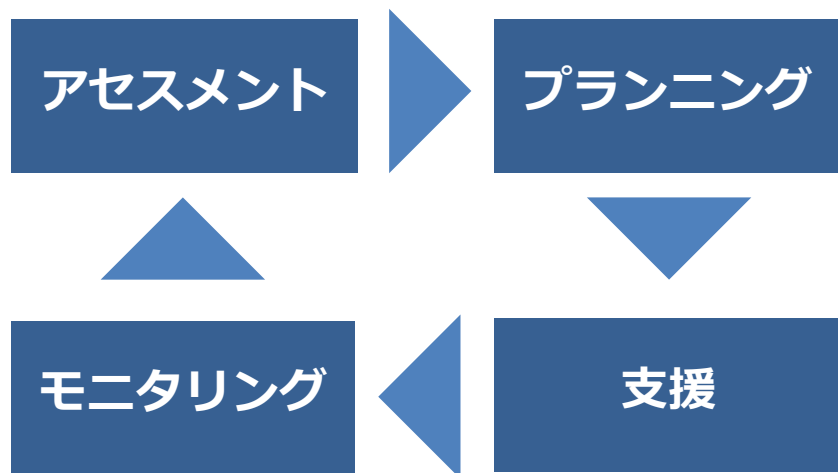
- 児相：児童福祉司, 心理士, SV
- 病院：精神保健福祉士, Dr, 看護師
- 学校：担任, 教頭
- 学園：心理士, 保育士, 社福士

効果

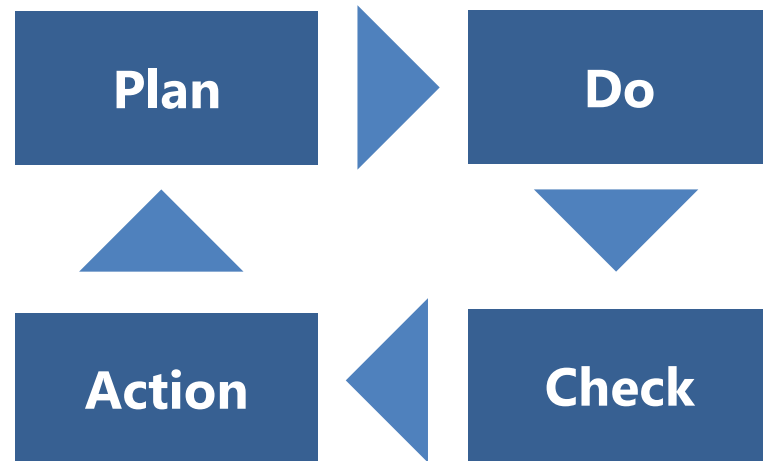
- **顔が見える** ことによる
情報の集約化, 共有化
- **役割が見える** ことによる
各機関の責任が明確化

ケアマネジメントについて

ケアマネジメントのプロセス



参考：PDCAサイクル



- 福祉におけるPDCAサイクル
→ **円環的な支援プロセス**

- 根拠のある支援が行うことができる（勘＋経験からの脱却）
→ **「なぜ」に答えられない支援は支援とは言えない**

事例報告 | 入院前の支援について

児相

病院

本人

学園

学校



課題

- 学園の日課にのれない
- イライラの悪循環

目標

- 暴力をしない
- 本人のペースに沿った支援

支援

- 特別プログラムの実施
- 病院への相談

● 本人への支援 ○ 関係機関調整

事例報告 | 入院当初 (26.4)

児相

病院

本人

学園

変化

- イライラを自制しようとする

課題

- 暴力の抑止
- 処遇方針再検討

目標

- 頓服の習慣化
- 処遇方針・支援計画の再検討

支援

- 本人への面会

● 本人への支援 ○ 関係機関調整

事例報告 | 入院中期 (26.5~26.8)

児相

病院

本人

学園

学校

変化

- 暴力の減少

課題

- 人間関係, 生活の安定化
- 退院調整 (処遇方針の再検討)

目標

- 暴力をしないこと

支援

- 学習支援の開始
- 国立武蔵野学院からのSV

● 本人への支援 ○ 関係機関調整

児相

病院

本人

病院

学園

学校

変化

- 自身の感情, 思考の言語化

課題

- 環境の変化への脆弱性

目標

- 学園への外出
- 関係機関の役割分担の検討

支援

- 目に見える化 (イエローカード)
- 進捗状況の確認

- 本人への支援 ○関係機関調整

事例報告 | リハビリ期 (26.10~)

児相

病院

本人

病院

学園

学校

変化

- ストレス耐性の強化

課題

- 刺激量の増加による対応
- 疲労による理解力低下

目標

- 学園への外出・外泊
- 退院調整 (フォロー体制構築)

支援

- 予定の見える化 (事前説明)
- 外出後の振り返り

- 本人への支援 ○ 関係機関調整

まとめ | ケアマネジメントのプロセス

アセスメント

プランニング

モニタリング

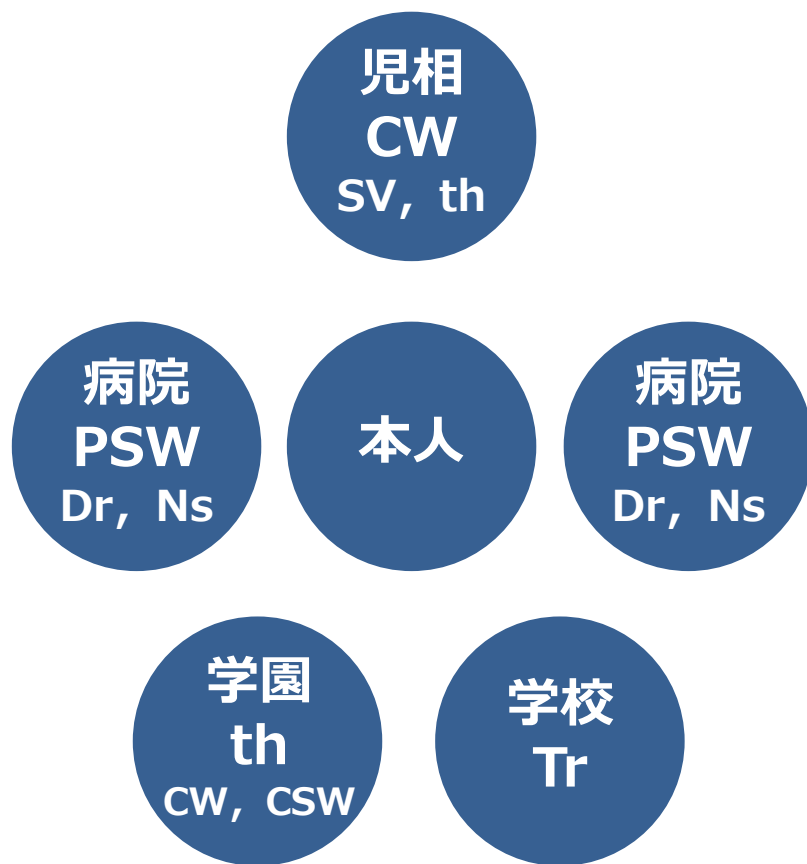
エヴァリュエーション

結論

- ケアマネジメントは
児童福祉領域においても有効
- 医療、教育、福祉等の総合的な
計画として策定されること
- 必要な期間で見直されること

5W1H

いつ、どこで、誰が、何を、
どのように、なぜ行うのか？



結論

- 未来志向
- 進捗状況の確認, 再検討
- 懸案事項の協議, 解決
- 本人への支援と
同時に連携体制の醸成

行動を伴わない連携は連携ではない

有機的な連携への**3**視点

- 組織内連携
- 組織間連携
- 時間軸